

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025年 9月 25日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 地球環境学堂・地球環境基盤の持続化デザイン論(上田記念財団)

職 名・学 年 特定助教

氏 名 土田 華鈴

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	日本爬虫両棲類学会 第64回大会／日台合同大会		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☒ 口 頭 ・ ☐ ポスター ・ ☐ その他()		
発 表 題 目	ハコネサンショウウオ属に寄生する <i>Angiostoma</i> 線虫について		
開 催 場 所	台北市立動物園(台湾)		
渡 航 期 間	2025年 9月 20日 ～ 2025年 9月 23日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。 「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	100,000円	
	使用した助成金額	100,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	47,507
		宿泊費	46,862
		滞在費	
		学会参加費	2,000
	その他	3,740	
	以上に助成金を充当		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 此度は貴重なご支援を賜り、ありがとうございました。今後とも国際的な研究交流を図ってまいりますので、お力添えの程、よろしくお願いいたします。		

成果の概要/土田華鈴

2025 年 9 月 21 日～22 日に台湾・台北市で開催された「日本爬虫両棲類学会第 64 回大会／日台合同大会」に、貴財団の国際研究集会発表助成を賜り参加し、口頭で発表を行いました。本学会は、日本及び台湾から 300 名以上の研究者が集い、爬虫両生類の幅広い分野について、基調講演、口頭発表、ポスター発表が実施されました。

私は、「ハコネサンショウウオ属に寄生する *Angiostoma* 線虫について (Nematode of the genus *Angiostoma* parasitic in *Onychodactylus* salamanders)」という題目で、口頭発表を行いました。本研究は、アンジオストマ線虫はなぜ陸生腹足類から爬虫両生類という幅広い宿主範囲を有するのかについて、ハコネサンショウウオ属に寄生する種と、ナメクジ類に寄生する種の分子系統解析、及び幾何学的形態測定を用いて検証しました。先行研究では、陸生腹足類寄生性種の宿主転換により爬虫両生類が宿主として獲得されたとする説と、唇状構造の形態特性の傾向から爬虫両生類寄生種はアンジオストマ線虫ではないとする説の 2 つが主な仮説として提案されていました。本研究の結果は、後者を支持しました。まず、分子系統解析から、陸生腹足類寄生性種は他のナメクジ類寄生性線虫と共に一つのクラスターを形成した一方で、ハコネサンショウウオ属寄生種のクレードは全く異なる場所に位置しました。このことから、少なくともハコネサンショウウオ属に寄生する種は、陸生腹足類寄生種の系統で宿主転換が生じて分化した種でないことが示されました。また、この系統的違いが形態特性にどのように反映されているかを知るため実施した口器形態の比較では、ハコネサンショウウオ属寄生種とナメクジ類寄生種で口腔、口腔壁、頭の形状に有意な差があることが明らかになりました。先行研究を含めた比較から、これら口器の形態特性の差異は、爬虫両生類寄生種と陸生腹足類寄生種でそれぞれ同一傾向にあると考えられました。したがって、アンジオストマ線虫は膨大な宿主範囲を有するのではなく、陸生腹足類寄生種が属する分類群であると考えられました。一方、爬虫両生類に寄生するアンジオストマ線虫は、別属とすることが妥当であると示唆されました。

本学会への参加並びに口頭発表を通じて、台湾の寄生虫学者や爬虫両生類学者と交流し、現行の研究内容に関する意見や、今後の共同研究の可能性についてディスカッションすることができました。さらに、他の講演や研究発表を拝聴・拝見し、歴史的背景から最新の研究方法や分類学的動向まで学びを深め、新たなアイデアにつながる様々なヒントを得ることができました。このような貴重な機会を得るにあたり、大きなご支援を賜りましたことに深謝いたします。今回の経験で得たコネクションやアイデアを、今後の研究活動に存分に活用してまいります。